

関東で大流行！  
風しん加害者にならないために…！！

# Avenir 風しん

風しんは、風しんウイルスによって引き起こされる急性の発疹性感染症です。風しんへの免疫がない集団において、1人の風しん患者から5～7人にうつす強い感染力を有します。風しんウイルスの感染経路は、飛沫感染で、ヒトからヒトへ感染が伝播します。

国立国際医療研究センター 忽那医師提供

写真1. 風疹による発疹 (成人)



風しんは淡紅色で小さく、皮膚面よりやや隆起して全身に広がるが、発熱と共に2～3日で消失

写真2. 耳介後部リンパ節の腫脹が見られる



リンパ節は風しんの出現する数日前より腫れはじめ、3～6週間位持続する

引用元：国立感染症研究所

## ● 関東を中心に増加！

平成23年から、海外で感染して帰国後発症する輸入例が散見されるようになり、平成25年には累計14,334例の報告があり、風しんが全数報告疾患となった平成20年、平成25年では最も多い報告数となりました。この流行の影響で、平成24年10月～平成26年10月に、45人の先天性風しん症候群の患者が報告されました。

## 風しん患者数の報告

平成26年163例

平成27年129例

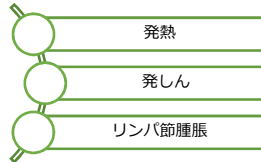
平成28年93例

平成30年7月下旬頃  
関東地方を中心に  
患者数の報告が増加！

## ● 気になる症状は？

感染すると約2～3週間後に発熱や発疹、リンパ節の腫れなどの症状が現れます。風しんの症状は、子どもでは比較的軽いのですが、まれに脳炎、血小板減少性紫斑病などの合併症が、2千人～5千人に1人くらゐの割合で発生することがあります。また、大人がかかると、発熱や発疹の期間が子どもに比べて長く、関節痛がひどいことが多いとされています。

風しん  
3徴候



● 治療法はない？  
特別な治療法はなく、発熱や関節炎には解熱鎮痛剤で対症療法が行われます。

## あなたは何年生まれですか？風しんワクチン接種状況チェック！

生年月日など	ワクチン接種の状況
昭和37年4月1日以前生まれの男女	定期接種が行われていませんでしたが、大半の人が自然に風しんに感染することで免疫があります。
昭和37年4月2日～昭和54年4月1日以前生まれの男性	中学生の時に女性のみを対象として、学校で集団接種が行われていたため、自然に風しんに感染する機会が減少しましたが、男性は定期接種制度が行われていないので、風しんの免疫がない人が多い世代です。
昭和54年4月2日～昭和62年10月1日生まれの男女	男女とも中学生の時に予防接種を受ける対象になっていましたが、中学生のときに個別に医療機関で予防接種を受ける制度であったため、接種率が低く、風しんの免疫がない人が多い世代です。
昭和62年10月2日～平成2年4月1日生まれの男女	男女とも幼児のときに予防接種を受ける対象となり接種率は比較的高いのですが、自然に風しんに感染する機会がさらに減少したため、接種を受けていない人には風しんの免疫がない人が比較的多い世代です。

## ● 風しんにかかったら？

主治医や上司と相談して発疹が消失するまで休む事を検討しましょう。やむを得ず、外出する際には、マスクを着用し、できるだけ人混みを避けましょう。



## ● みんなでワクチン接種！

予防接種が最も有効な予防方法といえます。風しんワクチン（主に接種されているのは、麻しん風しん混合ワクチン）を接種することによって、95%以上の人が風しんウイルスに対する免疫を獲得することができると言われています。また、2回の接種を受けることで1回の接種では免疫が付かなかった方の多くに免疫をつけることができます。さらに、接種後年数の経過と共に、免疫が低下してきた人に対しては、追加のワクチンを受けることで免疫を増強させる効果があります。

## ● なぜ若者に大流行？

かつては小児のうちに風しんに感染し、自然に免疫を獲得するのが通常でしたが、風しんワクチンの接種率の上昇で自然に感染する人は少なくなってきました。十分に免疫を持たない人達が増え、さらに、風しんワクチンの接種率の上昇に伴って、風しんの患者数が減り、風しんウイルスにさらされる機会が減少しました。そのため、幼少時にワクチンを1回のみ接種していた人は免疫が強化されおらず、時間の経過とともに免疫が徐々に弱まって来ている人がいたことも原因の一つと考えられています。

## ● 妊婦さんは要注意！

発疹の出る前後約1週間（人に感染させる可能性が）あります。

風しんに対する免疫が不十分な妊娠20週頃までの女性が風しんウイルスに感染すると、眼や心臓、耳等に障害をもつ（先天性風しん症候群）子どもが出生することがあります。（妊娠1ヶ月でかかった場合50%以上、妊娠2ヶ月の場合は35%などとされています）。妊娠中の女性は予防接種が受けられないため、特に流行地域においては、抗体を持たない又は抗体価の低い妊婦は、風しんが発生している地域では、可能な限り不要不急の外出を避けていただき、やむを得ず外出をする際には可能な限り人混みを避けていただくなど、風しんにかからないように注意してください。また、妊婦の周りには、妊婦の夫、子ども、（妊婦の同居家族等）その他の同居家族等）は、風しんに感染しないように予防に努めて下さい。

